

地域で役立つ人材をどう育てるか

24年度地域づくりコーディネーター養成講座

平成25（2013）年3月9日（土）パレオ2階

- 1 地域とは？
- 2 地域住民の関心事？
- 3 多様な要望に対処するには？
- 4 なぜ地域組織に関わってもらえないか
- 5 地域を担う人々をサポートする仕組み
- 6 その他支援体制

<講師> 長野大学 准教授 河野良治

<メンバー> 河野孝志、斎藤恵理子、清水重信、鈴木永

1 地域とは？

- 従来、地域は農業を軸として、自然と折り合い、治水管理を中心に、歩ける範囲での協同作業の必要性から自治会、公民館などの地域組織を運営してきた。
- 車社会の到来、農作業の機械化、地域の広域化、物流変化に対応した遠方消費者との直接取引、契約栽培など農業環境が変化
- 農業と無関係な住民、短期居住者、地域を知らない住民、地域外での経験者、子どもがいない家庭、核家族化、高齢化、独居老人など従来と違う世帯の増加
- 商業地域についても、駅中心から車社会、大型店、コンビニ、専門店、インターネットの利用など環境の変化

2 地域住民の関心事？

- 安全・安心
- 子育て環境
- 隣近所付き合い
- 義務教育環境
- 高齢化
- 食の安全
- 一人暮らし
- 趣味



3 多様な要望に対処するには？

- 誰もが関心を持つ「安心」を取り上げても、子がいるか、年をとっているか、健康かなどの環境により「安心」の中身が違う
- 多様な要望に対処するには発想の転換ができる自治会、公民館などの地域組織運営者（リーダー）が必要



4 なぜ地域組織に関わってもらえないか

○めんどうくさい

○できるだけやりたくない

○好きな人にやらせておけば

○しきたりが

○新しい人を入れたがらない

○どうせ最後は年寄りの意見で決まるから

○改革は必要だと言っておきながら、改革すると抵抗し、従来と同じやり方に安心するなら、新しい人が参加する意味がない

5 地域を担う人々をサポートする仕組み

- ◎ 地域には多くのグループがボランティアなどで活躍しており、人材は豊富
- ◎ 社会的にも活躍し、忙しい人に、気持ちよく地域組織で活躍していただくためには、自主的に動いてもらえる環境を整えること
- ◎ 組織内の住民の応援は無論、組織外の第三者からの応援も必要
- ◎ 行政関連の伝達事項は書面で事前に配布し、会議は最小限で、短時間で
- ◎ 質問の多くは配布書面を読めば判るものが多く、余分な説明はしない
- ◎ 行政書面は儀礼を省き、表現は簡素で明確に
- ◎ 経験者を、地域活動の助言者として委嘱し、委嘱状を行政から出していただく
- ◎ 地域組織を簡素にし、自治会組織と分館を一本化、地域自治センターに集約する
- ◎ 電子媒体の活用を積極的に行う

6 その他支援体制

- ◎ 企業に対して、地域組織に関わる方を評価する制度、例えば、有給休暇制度、ボーナスでの加算制度などの導入を働きかける
- ◎ 将来的には地域組織運営に関わる予備軍として若者のボランティア活動を支援する
- ◎ 行政や企業などの採用にあたり、地域活動やボランティア活動の実績を評価する
- ◎ 経験者が改革を望むなら、今までと違うやり方を受け止める度量を持つ